

令和元年7月16日

関係各位

東京大学大気海洋研究所長

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター
共同利用研究集会の開催について

標記のことについて、別添プログラムのとおり研究集会「最新の観測・モデル・理論研究から捉える日本周辺の気象及び気候変動」および「北太平洋を中心としたマルチスケール海洋変動と分野横断研究」を開催いたしますのでご案内申し上げます。

つきましては、貴機関関係者へご周知いただきますようお願い申し上げます。

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会

最新の観測・モデル・理論研究から捉える日本周辺の気象

及び気候変動

日 時：令和元年7月24日（水）10:00～17:50

7月25日（木） 9:00～11:30

場 所：東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター

〒028-1102 岩手県上閉伊郡大槌町赤浜 1-19-8

TEL 0193-42-5611

研究代表者：木下 武也（海洋研究開発機構）*、

田中 潔（東京大学大気海洋研究所）

*連絡先 TEL：046-867-9464、FAX：046-867-9255

e-mail：t-kinoshita@jamstec.go.jp

プログラム

(**：特別講演、*：招待講演)

7月24日（水）

10:00 - 10:05 趣旨説明・事務連絡

セッション1（座長：石田 悠貴）

10:05 - 10:23 児玉 真一（東京大学 大気海洋研究所）

2004年台風18号による遠隔降水事例の研究

10:23 - 10:41 倉持 将也（筑波大学 生命環境学群地球学類）

日本における冬季降雪変動を規定する総観規模擾乱の定量化

10:41 - 10:59 入江 健太（東京学芸大学 大学院教育学研究科）

寒冷渦が温低化する台風に与える影響について

10:59 - 11:17 石田 悠貴（新潟大学 大学院自然科学研究科）

北半球中高緯度における対流圏界面高度の経年変動と長期変化傾向

11:17 - 11:35 山田 洋平 (海洋研究開発機構)
エルニーニョ翌年の台風の活動度に注目したアンサンブルシミュレーション

11:35 - 11:53 森井 洋 (東京大学 大気海洋研究所)
夏季北西太平洋における太平洋高気圧活動の年々変動について

11:53 - 13:00 昼食休憩

セッション2 (座長: 岩切 友希)

13:00 - 13:18 上田 くらら (筑波大学大学院)
大気海洋陸面結合系における太平洋高気圧の形成と変動要因~チベット高原標高改変実験を通して~

13:18 - 13:36 池端 耕輔 (東京大学 大気海洋研究所)
NICAMを用いたアンサンブルシミュレーションによる平成30年7月豪雨の研究

13:36 - 13:54 伊藤 純至 (東京大学 大気海洋研究所)
肱川あらしの数値シミュレーションとその検証

13:54 - 14:14 *岩切 友希 (東京大学 大気海洋研究所)
ENSO サイクルにおける夏季日本の気温傾向

14:14 - 14:32 松岡 優輝 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
寒気吹き出し中にみられる太平洋側の降雪

14:32 - 14:50 後藤 優太 (東京大学 大気海洋研究所)
平成30年2月上旬の日本海に発生した Polar Low の発達過程に関する事例研究

14:50 - 15:20 休憩

セッション3 (座長: 西川 はつみ)

15:20 - 15:38 杉原 直樹 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
南極振動が駆動するソマリジェットが及ぼす南北両半球間遠隔影響

- 15:38 – 15:58 *西川 はつみ (北海道大学低温科学研究所)
北太平洋移行領域の海面水温フロント形成
- 15:58 – 16:16 齊藤 和雄 (東京大学 大気海洋研究所)
2018年12月ベトナム中部域の豪雨とQPE/QPF
- 16:16 – 16:34 太田 圭祐 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
2017/18年冬季の異常な中高緯度大気循環に影響した異常なチャクチ海の
海氷減少
- 16:34 – 16:52 坂崎 貴俊 (京都大学 大学院理学研究科)
熱帯海洋上大気の気温太陰潮汐シグナルの検出
- 16:52 – 17:17 **木本 昌秀 (東京大学 大気海洋研究所)
極端気象時代に生きる君たちへ
- 17:17 – 17:50 木下 武也 (海洋研究開発機構)、山本 晃立 (東京大学)、
賀澤 海斗 (新潟大学)、坂本 律 (新潟大学)、中村 祐貴 (三
重大学)、加藤 茜 (三重大学)
自己紹介, 及び今後の研究計画
- 18:30 – 懇親会

7月25日 (木)

セッション4 (座長: 石山 尊浩)

- 09:00 – 09:18 益本 大地 (筑波大学大学院)
オホーツク海高気圧の形成における梅雨期の降水に起因した遠隔強制
- 09:18 – 09:38 *石山 尊浩 (東京大学 大気海洋研究所)
台風とPacific Meridional Modeの関係
- 09:38 – 09:56 本田 明治 (新潟大学 大学院自然科学研究科)
寒冷渦: グローバル現象とローカル現象をつなぐ架け橋
- 09:56 – 10:14 近藤 誠 (北海道大学 理学部地球惑星科学科)
SCALEを用いた2つの異なる雲物理スキームでの北海道における降雪の
再現性を降雪粒子の観測を用いて比較に向けて
- 10:14 – 10:34 休憩

10:34 – 10:54 *渡邊 俊一 (気象業務支援センター)
大気海洋結合地域気候モデルの開発

10:54 – 11:12 新野 宏 (東京大学 大気海洋研究所)
2015年9月1日に対馬沖で突風による海難事故を生じたメソ β スケールの
渦

11:12 – 11:30 吉田 聡 (京都大学 防災研究所白浜海象観測所)
地球深部探査船「ちきゅう」と連携した黒潮域大気・海洋・海底同時観測

#講演時間：一般講演(無印)18分間，招待講演(*)20分間，特別講演(**)25分間。

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会
北太平洋を中心としたマルチスケール海洋変動と分野横断研
究

日 時：令和元年7月25日（木）13:00～17:30
7月26日（金）9:00～15:40

場 所：東京大学 大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター
〒028-1102 岩手県上閉伊郡大槌町赤浜一丁目19番8号
TEL 0193-42-5611

研究代表者：長船 哲史（海洋研究開発機構）
Tel:046-867-9453 E-mail:osafune@jamstec.go.jp
田中潔（東京大学大気海洋研究所）

プログラム

(*: 招待講演)

7月25日（木）

13:00-13:05 趣旨説明・事務連絡

Session 1 座長：長船 哲史（海洋研究開発機構）

13:05-13:30 伊藤幸彦*（東京大学 大気海洋研究所）
海洋混合層と植物プランクトンブルーム

13:30-13:50 瀨瀬 慎也（海洋研究開発機構）
海洋観測データ処理のための時空間スケールの検討

13:50-14:10 亀山 昂平（名古屋大学 環境学研究科 地球環境科学専攻）
混合層乱流クロージャーモデルの開発における KEO ブイデータの有効性

14:10-14:30 王 童（東北大学大学院 理学研究科 地球物理学専攻）
Evolutions of water mass anomalies in the upper North Pacific based on Argo data

Session 2 座長：堤 英輔（東京大学 大気海洋研究所）

14:40-15:00 瀬良 将太（東北大学大学院 理学研究科 地球物理学専攻）

西部北太平洋の風系パターンと海洋変動

15:00–15:20 飯田 瑞生 (東北大学大学院 理学研究科 地球物理学専攻)
ベーリング海の海氷と東アジア寒気流出の経年変動について

15:20–15:40 豊田 隆寛 (気象庁 気象研究所)
海洋・海水シミュレーションにおける海水速度データの利用

15:40–16:00 志村 貴寛 (名古屋大学 環境学研究科 地球環境科学専攻)
太平洋海洋表層季節波動のライフサイクルの解析
: 熱帯中緯度連続解析によるエネルギー循環像

Session 3 座長: 豊田 隆寛 (気象庁 気象研究所)

16:10–16:30 加瀬 有理 (名古屋大学 環境学研究科 地球環境科学専攻)
松浦 知徳 (東京大学 大気海洋研究所)
海底地形による海洋大循環の制御と中規模擾乱の発生

16:30–16:50 柏井 誠
フリーランド “ギャップ”, オホーツク海入口における対向流交換の証

16:50–17:10 岡田 俊亮 (東北大学大学院 理学研究科 地球物理学専攻)
太平洋における海洋貯熱量経年変動の空間特性

17:10–17:30 長船 哲史 (海洋研究開発機構)
潮汐鉛直混合スキームを用いた海洋環境再現実験

17:30– 自己紹介

After session

18:00– 海洋パート懇親会

7月26日 (金)

Session 4 座長: 亀山 昂平 (名古屋大学 環境学研究科 地球環境科学専攻)

9:00–9:20 坂本 天 (東京大学 大気海洋研究所)
ネスト手法を用いた大槲湾における低次生産過程オンラインモデリング

9:20–9:40 尾形 友道 (海洋研究開発機構)
渦解像海洋モデル (OFES) で再現された北太平洋/日本海亜表層の塩分変動

9:40–10:00 佐々木 英治 (海洋研究開発機構)
北太平洋高解像度モデルによる海洋微細構造の時空間変動

10:00–10:20 福澤 克俊 (東京大学大学院 理学系研究科)
九州西方沿岸域で発生する気象津波に関する統計解析

Session 5 座長：福澤 克俊（東京大学大学院 理学系研究科）

10:35–10:55 林 和彦（気象庁）

気象庁沿岸海況監視予報システムの導入について

10:55–11:15 橋本 晋（仙台管区気象台 地球環境・海洋課）

岩手県沿岸水温と日本沿岸海況監視予測システム（MOVE/MRI.COM-JPN）との比較

11:15–11:35 坂本 圭（気象庁 気象研究所）

気象庁現業運用に向けた日本沿岸海況監視予測システムの開発

11:35–11:55 黒木 聖夫（海洋研究開発機構）

ポスト「京」に向けた高解像度日本沿岸モデル開発

<大槌シンポジウム・海洋モデリングシンポジウム合同セッション>

Session 6 座長：瀬瀬 慎也（海洋研究開発機構）

13:00–13:25 羽角 博康（東京大学 大気海洋研究所）

陸域・沿岸海域・外洋域をつなぐ数値モデリングシステムの構築に向けて

13:25–13:45 美山 透（海洋研究開発機構）

オホーツク海におけるカムチャッカ半島からの河川流^①の役割

13:45–14:05 広瀬 直毅・韓修妍・木田新一郎（九州大学 応用力学研究所）

津軽海峡の形状抵抗とその影響

Session 7 座長：浦川 昇吾（気象庁 気象研究所）

14:20–14:40 鈴木 立郎（海洋研究開発機構）

温暖化時の海洋熱吸収に伴う海面水位変化

14:40–15:00 青木 邦弘（海洋研究開発機構）

確率予測

15:00–15:20 石川 洋一（海洋研究開発機構）

気候変動適応のための海洋ダウンスケーリングと日本周辺将来予測データセット

After session

15:20–15:40 総合討論